

## 平成18年度春季全国大会

### インターネットによる「研究発表」講演申込受付及び原稿提出受付について

— 申込みはインターネット(J-STAGE)による講演申込のみになります。御協力下さい。 —

平成15年度秋季大会より、J-STAGE（科学技術振興機構）を利用して、インターネットによる講演申込受付及びPDFファイル形式による原稿の提出受付を開始することにいたしました。申込については、本会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jws/index.html> からお申し込み下さい。なお、申込及び原稿提出は、J-STAGE 利用のみとなりますのでご注意ください。

研究発表に関する募集要項、講演分類、原稿執筆要領（和文、英文）、講演プログラム校正の電子化（試行）、フォーラム論文募集、液晶プロジェクターの利用の試行等講演及び大会に関する情報については、本誌会告及び本会ホームページに掲載いたしますので、ご確認ください。

講演申込及び原稿提出につきましては、受付期間が各2週間程度に限定されておりますのでご注意ください。

**申込受付期間：12月20日 12：00～1月18日 14：00**，

（但し、12月23日～1月3日はJSTセンター工事中のため休止）

**原稿提出期間：2月2日 12：00～2月21日 14：00**

PDF原稿を作成するに際しては、PDFをプリントアウト

する等、文字、写真等の品質をあらかじめ確認して下さい。

なお、講演概要はJ-STAGEにて公開されますので、公開を希望されない方は、非公開希望の旨、あらかじめお申し込み時に学会事務局まで申し出て下さい。

（注意事項）

- ①上記申込受付及び原稿提出期間を過ぎますとJ-STAGEの利用はいっさい不可能となります。時間に余裕を持ってご利用ください。なお、詳細な情報は学会HPにて確認してください。
- ②原稿のファイル形式は、PDF形式のみ受付ます。PDFのファイルサイズの上限は、3MBです。PDFファイル作成のためには、PDFファイル作成専用ソフトAdobe Acrobat（4.0以上のバージョン）をご利用下さい。無料配布ソフトAdobe ReaderではPDFファイル作成ができませんので、ご注意ください。
- ③PDF原稿提出時に申込時の受付番号とパスワードが必要になりますので忘れずに保管してください。



## 平成18年度春季全国大会「研究発表」講演募集

— インターネット(J-STAGE)による講演申込のみになります。御協力下さい。—

概要集原稿の締切は皆様のご要望により事務処理期間を大幅に短縮し、申込締切と分離して大会2か月前とすることにいたしました。

従いまして、申込者各位におかれましては、くれぐれも期日を厳守くださるようお願いいたします。

原稿締切から概要集発行までぎりぎりの時間しかありませんので、期限切れ及び不備な原稿は不本意ながら掲載をお断りし、その部分白紙のまま発行することになりますのであらかじめご了承ください。また、プログラム編成後の申込取消は修正不可能ですのでプログラム及び概要集にはその旨記載され、その部分ブランクのまま発表されますのでご了承ください。



平成18年度春季全国大会を下記のとおり開催いたしますから、この大会で「研究発表」講演をご希望の方は申込要領に従ってお申込ください。

開催期日 平成18年4月12日(水)、13日(木)、14日(金)

開催場所 東京ビッグサイト(東京)

### —講演申込募集—

1. 申込期間：平成17年12月20日(火)12:00～  
1月18日(水)14:00  
(但し、12月23日～1月3日はJSTセンター工事中のため休止)
2. 申込資格：申込者は正員であること。連名の場合、

講演者は正員（学生員も認める）でなければなりません。

3. **申込方法**：前記学会ホームページへアクセスして、画面上からお申込み下さい。また、下記講演登録料をご納入ください。同一大会での連続報告は2報までですのでご注意ください。

◎**講演登録料**：1件について4,000円をご納入ください。送金は現金書留郵便でお願いいたします。登録料は講演申込が取り消されても返却いたしませんのでご了承ください。

※大会参加費（会員2,000円、非会員4,000円、学生無料）は大会当日別途申し受けますのでご注意ください。なお、講演概要集（5,000円）は別売となります。

※**受付済通知**：J-STAGEより受付番号が発行されますので保管しておいて下さい。

4. **原稿（PDF）提出期間**：平成18年2月2日（木）  
12：00～2月21日（火）14：00
5. **講演概要原稿**：本会「全国大会講演概要原稿執筆要領」に従って作成してください。
6. **発表時間**：講演10分、討論5分
7. **講演申込の確認**：申込を受付けますとただちに受付

番号を送信いたします。

8. **講演申込の取り消しについて**

講演申込締切り後ただちにプログラム編成を行います。プログラム編成後の取り消しは他の講演申込者に多大の迷惑を及ぼしますのでくれぐれも慎んで下さい。

9. **付帯器具の申込み**：講演に必要な器具（フィルム映写機、VTR等）は遅くとも大会1カ月前までにお申出ください。大会直前に申し出られましても準備できかねる場合があります。同様器具を持ち込まれる場合も事前にお申出ください。会場の都合で設営できない場合があります。OHP及びPC用液晶プロジェクタは常備します。なお、操作は講演者側でお願いします。

10. **講演登録料送付先**：

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-11  
溶接学会 会計係  
電話 (03) 3253-0488

※PDF（原稿）作成の場合は、事前に解像度を確認してください。

# 溶接学会全国大会講演分類

今回より講演分類が変わりましたのでご注意ください。

分類記号 ・番号	内 容	備 考	分類記号 ・番号	内 容	備 考
I	溶接プロセス (含機器)		7 8 9 10 11  1 2 3 4 5 6 7 8 9  1 2 3 4 5 6 7 8 9  1 2 3 4 5 6 7 8 9  1 2 3 4 5 6 7 8 9  1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	新材料接合部の諸特性	
	1 溶融溶接(1)：アーク溶接, ガス溶接			セラミックス	
	2 溶融溶接(2)：高エネルギービーム溶接			複合材料	
	溶接技術の新しい展開			機能材料	
	3 新溶接技術			高分子材料	
	4 新熱源開発, 同応用			その他：新素材開発	
5 加工技術					
6 その他					
II	制御・システム工学, 溶接・接合技術の 各産業分野への展開			溶接・接合部の強度・破壊と設計	
	1 センサー, モニタ, 計測技術			1 溶接・接合部の応力	
	2 インプロセス制御技術, 品質制御技術			2 溶接・接合部の静的強度	
	3 ロボット工学・技術		3 破壊靱性, き裂 (発生, 進展)		
	4 自動化, システム化技術		4 疲労強度, 疲労き裂		
	5 CAD, CAM, FA		5 環境強度, クリープ		
	6 製品開発		6 溶接・接合設計 (強度計算など)		
	7 生産, 製造, 施工, 組立など		7 信頼性, 安全性評価		
	8 その他：新技術, 新システムなど		8 劣化診断, 寿命予測		
	品質保証, 施工管理		9 その他		
	9 品質保証, 工程設計など				
	10 安全・衛生, 教育, 訓練		圧接, ろう接プロセス		
11 非破壊検査, 同機器		1 圧接(1)：抵抗溶接			
12 その他：生産設備など		2 圧接(2)：摩擦, 超音波, 爆接			
III	金属材料の溶接・接合部, 表面改質部の特性 (含鋼材, 溶接材料など)		3 固相接合, 拡散接合		
	1 溶接・接合部, 表面改質部の物理化学		4 接着, ウエルドボンド		
	2 溶接・接合部, 表面改質部の組織及び機械的 性質		5 ろう接：ろう付, はんだ付		
	3 耐食性, 耐環境性		6 マイクロ接合		
	4 低温割れ, 高温割れ, 応力腐食割れなど		7 機械的接合：リベット, ボルト継手など		
	5 気孔, スラグ巻き込みなどの欠陥		8 その他：新接合技術		
6 その他		表面改質及び熱加工プロセス (含機器)			
IV			9 成膜(1)：肉盛, 溶射, めっき		
			10 成膜(2)：PVD, CVD, イオンミキシング		
			11 成形：焼結, HIP, 鑄ぐるみなど		
			12 切断, ガウジング, 穴あけ加工など		
			13 その他：焼き入れ, グレージング, 封孔処 理, 新加工技術など		

# 全国大会講演概要原稿執筆要領 (講演番号をご記入ください)

— PDF 原稿のみとなります。 —

概要原稿 (テンプレート) が本会ホームページに用意されていますのでご利用ください。

講演概要は、提出された原稿をそのまま B5 版 (約 2/3) に縮写しオフセット印刷しますので、原稿は必ず下記要領に従ってください。

なお、この要領に記載していない事項については、「溶接学会投稿規定及び執筆要領」に従ってください。

## 1. 原稿用紙

本会所定 (又は、指定フォーマット) のものに限ります。

1 ページ目は、題目、勤務先 (研究場所)、氏名、英文タイトル、英文著者名、キーワード、本文などの記入用の用紙 (A) を使用してください。

## 2. 原稿の長さ

題目 (和英両文)、勤務先、著者名 (和英両文)、キーワード (和英両文) 本文、図表及び写真を含めて、原稿用紙 2 枚 (A, B) にできるだけ余白を残さずに書いてください。

字数は、40 字 × 37 行 × 2 枚 = 2,960 字 (タイトル等に約 360 字、本文は約 2,600 字) です。

## 3. 原稿の書き方

### イ. 題目、勤務先、著者名、キーワード、講演番号

原稿用紙 (A) の所定の場所にそれぞれのレイアウトを考えて書いてください。

題目はできるだけ簡潔に願います。

(副題をつけるときは溶接学会執筆要領に従い間違いないように記載して下さい)

著者連名の場合は、講演をする著者名の頭に○印をつけてください。

英文タイトル及び著者名は、次の例のように書いてください。

Study on Plasma Welding

by Fuyuhiko Akiyama and Haruki Natsukawa

キーワードは次の例のように 3~5 ワード書いて下さい。

キーワード: アーク, 凝固, 割れ, 疲労

Keywords: arc, plasma, physics

PDF ファイルを作成する場合は、講演番号 (受付番号ではありません) をご記入ください。講演番号は大会プログラム校正画面 (<http://www.jpp.co.jp/yosetu>) にてご確認ください。本会ホームページよりアクセスできます。

## ロ. 本文

原稿用紙 (A) 12 行目から (B) いっぱいに原稿用紙のコマに合わせて黒色で書いてください。また、タイプライター、ワープロ使用の場合、用紙の枠いっぱいにコマ数 (40 字 × 37 行) だけ打ってください。(全体の字数が超過しなければ、行数、一行の字数の多少の変動はかまいません)

オフセット印刷であることを考えて、文字、図表は鮮明に書いてください。

レイアウトに際しては、概要集全体の体裁を考慮して、行頭、端末の不揃いや枠のはみ出し・余白がないよう十分に注意してください。

文字の大きさは、刷り上がりが約 2/3 に縮刷されることを考慮して、大き過ぎあるいは小さ過ぎることのないようご注意願います。

大体、原稿用紙のコマに多少隙間をつけて書けば刷り上がりがきれいになります。

## ハ. 図表及び写真

図表及び写真は、縮尺 (約 2/3) を考慮した大きさにして関連する本文の近い場所に貼付してください。

または、直接原稿用紙に書き込んでも結構です。図表挿入の際はくれぐれも枠をはみ出さないようご注意願います。

なお、顕微鏡写真など縮尺を記入する必要があるものは、刷り上がりが 2/3 になることを計算して記入してください。

図表及び写真には、Fig. 1, Table 1 などのように番号を付し、表題、説明 (Caption) は英文で書いてください。(写真は Photo でなく Fig. としてください)

## 4. 校正

校正は (著者、編集者とも) いたしませんから、誤字、脱字のないよう原稿の時点で十分注意してください。

## 5. 原稿の提出

提出期間内に PDF (原稿) を J-STAGE に (学会ホームページより) アップロードしてください。原稿提出期限を過ぎますと画面が閉鎖されアップロードできなくなりますので充分ご注意ください。

〔原稿見本〕

( )

## プラズマ溶接の研究

12pt, 明朝体

↑  
講演番号  
(発表者で記入)

16pt, 半角  
ゴシック

10.5pt 日本工科大学 ○秋山 冬彦  
世界電機株 夏川 春樹

10.5pt

### Study on Plasma Welding

10.5pt by Fuyuhiko Akiyama and Haruki Natsukawa

キーワード：アーク，凝固，割れ，疲労 Keywords: arc, plasma, physics

本文（12行目から）→

本研究は，プラズマジェットを用いる溶接法について……

10.5pt

↑  
1～2字アケル



## Guide to Preparation of manuscript for the National Meeting

Manuscripts for the national meeting of JWS should be made with the manuscript papers designated by JWS.

Manuscripts are photographed without any proof-reading and reduced in size of about 2/3 for printing and published as “Preprint of the National Meeting of JWS”.

### 1. Manuscript papers

The manuscript papers designed by JWS are available from JWS office.

The manuscript papers consist of two sheets, marked A and B, in A4 size. Letters and drawings on the sheets disappear in the printing operation.

### 2. Length of manuscripts

Title, authors names, affiliations, keywords, text, figures, tables, photographs, references etc should be written on the two sheets, more precisely within the outer frame drawing on the sheets.

### 3. Instruction for preparation

Manuscripts should be made clearly with a type writer or word processor with black ink.

Figures and tables should be clear even after the reduction for printing.

#### a) Title, names, affiliations

Title should be filled in the designated place of the sheet A. Authors names and affiliations should be filled in the lines between 3 and 7 of the sheet A.

Title is recommended to be informative and brief. Authors names are full first names followed by the initial of middle and family names. Affiliation is the name of the organization author is working with. Speaker is identified with a circle in the front of name.

Keywords (3~5 words) should be noted

#### b) Text

Text begins at the line 12 of the sheet A. Letters should be larger than 10 point. Line space is single. Text shall be arranged within the outer frame drawing on the sheets. Trade names should not be used.

#### c) Tables and figures

Tables and figures should be typed directly or adhered to the sheets within the outer frame drawing on the sheets. Photograph is classified as a figure. Tables and figures have the consecutive numbers and captions. Quantity is given in SI units.

### 4. Proofreading

Proofreading is not given by the editor.

### 5. Submission of manuscripts

Manuscripts should be mailed to JWS office in an envelope, with a red note “Manuscript for the National Meeting” on its face surface. It is advised to put a hard sheet in the envelope to avoid any damage of manuscripts by bending during handling.

— SAMPLE (reduced in size) —

12pt, 明朝体

PLASTIC CONSTRAINT EFFECT ON FRACTURE BEHAVIOR  
OF A NOTCHED SPECIMEN WITH SIDE GROOVE  
PART I: ANALYTICAL CONSIDERATIONS OF THE STRESS FIELDS

MOHAMED El-Shenawy, Fumiyoshi Minami, Masao Toyoda 10.5pt

Department of Welding and Production Engineering  
Osaka University, Japan

Kazusige Arimochi 10.5pt

Sumitomo Metal Industries, Japan

Keywords: fracture, toughness, plastic constraint 10.5pt

10.5pt

**INTRODUCTION**

10.5pt

Fracture mechanics approach is applied to evaluate the fracture strength of structure with respect to the unstable cleavage fracture, plastic constraint is believed to be a major factor of resistance because

stress fields are strongly dependent on the constraint condition toughness of the material is decreased with increasing the degree of plastic constraint.



## 平成17年度秋季全国大会における液晶プロジェクターの 利用について

全国大会運営委員会

平成13年度溶接学会秋季全国大会より、液晶プロジェクターの利用を試行しておりますので、今秋季全国大会において、液晶プロジェクターの利用を希望される方は、下記の事項を遵守するとともに、トラブルがあった場合には、OHPシートによる発表に切り換えさせていただくことをご了承の上ご使用ください。なお、パソコン持参者のために切替器を準備しておりますので、併せてご利用ください。

### 記

全国大会運営委員会で準備する機器

- 1) 液晶プロジェクタ
- 2) パソコン
- 3) モニタ切替器

発表者の準備するもの

- 1) パワーポイントで作成した発表用のファイル  
(ISO9660形式)

メディアはCDとし、ファイル名は次のように付けておいてください。

講演番号+発表者氏名.ppt

USBメモリーの使用もできます。

- 2) OHPシート

※休憩時間の間に液晶プロジェクタに接続したパソコンに、発表者ご自身で発表用のパワーポイントファイルをコピーしていただきます。

※トラブルがあった場合には、OHPプロジェクターによる発表に切り換えさせていただきますので、OHPシートも必ず準備しておいてください。

## 平成18年度春季全国大会フォーラム論文募集

**主 題：**各種産業分野における異種材料接合の現状と課題

**座 長：**渡辺健彦（新潟大学）

鈴村暁男（東京工業大学）

高橋康夫（大阪大学）、高橋雅士（株東芝）

錦織貞郎（株IHI）

**趣 旨：**

電子産業、エネルギー産業、自動車産業など、各種産業分野において異種材料同士を直接的に接合して、部品・製品の高性能化・高性能化が試みられ、種々実用に供されている。しかし、異種金属間の接合では接合部における脆弱な金属間化合物の形成をはじめとする種々の問題があり、またセラミックス／金属間の接合では、結合力の発生メカニズムや熱応力問題など、未だに解決困難な問題が山積している。一方、近年環境問題がクローズアップされているが、部品の製造過程だけに止まらず使用後の処理や再生過程まで含んだ環境への影響評価への要求も高まり、適用技術に対する制約条件となりつつある。

このような状況の中で、さらに新たな材料の適用が期待されつつ、接合技術も大幅な変革を余儀なくされている。材料の組合せおよび適用接合技術の選択も含めた製造技術の最適化については、まさに終着駅のない前進が要求されている。

本フォーラムでは、各種産業分野における部品製造に

採用されている異種材料の組合せとその接合技術および補修技術について、現状と問題点・解決すべき課題などを互いに紹介し合い、特に環境基準への対応を重視した最近の動向を中心に、広範な見地から情報交換・意見交換を行う場としたい。

**記**

**日 時：**平成18年4月12日（水）～14日（金）

**会 場：**東京ビッグサイト（東京）

**申込方法：**著者名、タイトル、概要（400字程度）、連絡先を明記した上、メール（jws-ym@kt.rim.or.jp）またはファックス（03-3253-3056）で溶接学会事務局へお申し込み下さい。

**申込締切日：**平成17年10月31日（月）

**講演採否：**お申し込まれた講演の採否は直接申込者にお知らせ致します。

**原稿締切日：**平成18年2月1日

（採択された講演者には、所定の書式に従って作成した原稿を、平成18年2月1日迄に提出していただきます。提出いただいた原稿は、溶接学会全国大会講演概要集No.78に掲載致します。なお、講演時間は、1件約15分～30分程度を予定しています。原稿作成方法などの詳細は座長より連絡致します。）

## 第33回溶接学会東部支部実用溶接講座(見学会&講習会)

IIW 資格制度特認コース：J-ANB 認定講座

ISO14731/WES8103 溶接管理技術者資格制度：

再認証審査小委員会認定講座

「鉄道車両製造工場見学と薄板溶接技術の最新トレンド」

主催：(社) 溶接学会 東部支部

共催：(社) 溶接学会 東部支部 - 神奈川地区

協賛：日本鉄鋼協会，日本鋼構造協会，ステンレス協会，日本非破壊検査協会，軽金属溶接構造協会，日本溶接技術センター，産報出版株，日本工業出版，日本機械学会，日本ロボット学会，日本溶接協会，日本船舶海洋工学会 (順不同，含依頼中)

趣旨：

薄板の溶接技術は，日常の社会生活に欠かせない鉄道車両や自動車などの輸送機器製作に用いられている非常に重要なキーテクノロジーである。それらの機器では，ますます軽量化，高性能化などが重要な課題となっているが，生産技術面から見れば，品質確保およびコスト低減などの点から溶接技術の研究開発成果が大きく貢献している。

本講座では，鉄道車両製造方法について工場見学するとともに，車両製造に適用される溶接・接合方法，薄板に適した溶接方法などに関する最新技術動向の紹介，および薄板接合で問題となる変形について解説する。

薄板溶接に関係する方々はもとより，車両工場を見学できる機会としても，幅広く多くの方のご参加をお願い申し上げます。

開催日時：平成17年12月6日(火) 10:00~17:00

※受付開始 9:30~

開催場所：東急車輛製造株式会社 横浜製作所 研修室  
(横浜市金沢区大川 3-1 Tel: 045-701-6641)

交通：京浜急行・金沢八景駅下車 徒歩約10分  
(別途地図参照)

定員：50名(先着受付順)。

参加費：8,000円(学生：2,000円)(テキスト代を含む)

※1) 当日，昼食に弁当を用意致します(代金別：1,000円)。同時にお申込み下さい。

※2) 参加費，弁当代ともに当日受付。釣銭の不要なようにご協力願います。

申込締切：平成17年11月18日(金)

申込方法：末尾の申込書式に必要事項を記入の上，電子メール，またはFAX，郵送で申し込み下さい。

申込先：東京大学大学院工学系研究科

環境海洋工学専攻 武市祥司

e-mail: takechi@naoe.t.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-3815-8360 Tel: 03-5841-2771

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

受講ポイント：

①IIW溶接技術者資格 特認コース履修ポイント

モジュール1: 1.5ポイント

(内訳：M1.3: 0.5pt, M1.7: 1pt)

モジュール4: 1ポイント

(内訳：M4.2: 0.5pt, M4.3: 0.5pt)

②ISO14731/WES8103 溶接管理技術者

再認証クレジットポイント：7ポイント

プログラム：

①10:00~10:05 開会の挨拶(東部支部支部長)

②10:05~12:00 東急車輛/車両製造工場

見学会(東急車輛)

10:05~10:20 横浜製作所および車両製造工程のご紹介

10:20~11:50 工場見学(90分)

11:50~12:00 見学後の質疑応答

※同業者の方には見学をお断りする場合があります。

あらかじめご了承ください。

③12:00~13:00 昼食(弁当)

参加申込時に弁当申込みもお願いします。

※付近の食堂利用は困難です。

④13:00~17:00 講演会「薄板溶接技術の最新トレンド」

13:00-13:45

「鉄道車両製作における溶接技術の現状と今後の展開」  
東急車輛製造(株) 車両事業部 生産技術部 木村 億尋  
主としてステンレス車両を対象に，その構造，材質および製造に用いられている溶接工法ならびに品質基準の概要を説明すると共に，ステンレス車両のリサイクル性と今後の製造技術革新の展望について紹介する。

13:45-14:30

「自動車産業におけるレーザー溶接の実用化」

日産自動車(株) 車両技術開発試作部 樽井 大志  
自動車の車体へのレーザー溶接及びブレージングの適用メリットには車体性能の向上，造形自由度の向上だけではなく，生産性向上によるコスト低減効果がある。欧州，特にドイツの自動車産業ではこのようなメリットを狙いレーザー接合技術を積極的に適用している。本稿では車体へのレーザー適用について欧州での適用事例を中心に紹介する。

14:30-15:15

「薄板に対する低入熱アーク溶接 CMT 接合法と最新抵抗溶接」

愛知産業(株) 取締役営業本部長 古川 一敏  
最新のデジタル技術により溶滴移行とワイヤ送給の同期制御を実現した CMT 接合法について，スパッタレスの効果及び0.3mmtの薄板溶接などの例を交えて紹介する。さらに，薄板の溶接に有効な片面加圧による最新のスポット溶接法，シーム溶接方法を紹介する。

15:15-15:30 休憩

15:30-16:15

「FSW, FSJ の特徴と薄板溶接への実用化」

川崎重工(株) システム技術開発センター 製造技術部  
藤本 光生

輸送機器を軽量化するためにアルミニウム合金への材料置換が進められている。線接合については摩擦攪拌接合が用いられている一方で、点接合に関しては摩擦攪拌接合を応用した新たな点接合を開発し実用化を進めつつある。ここではこれら摩擦攪拌現象を応用した接合に関する基本的なプロセスおよび

システムを述べるとともに各分野における実用例を示す。

16:15-17:00

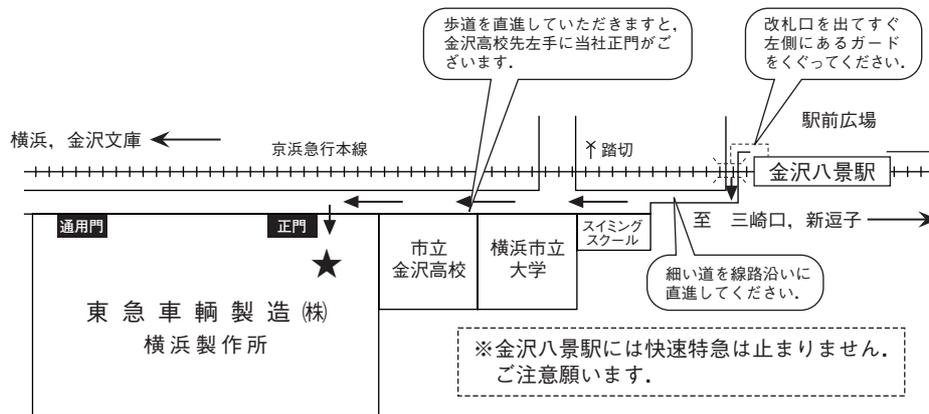
「溶接変形の発生機構と最近の評価手法」

大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻  
望月 正人

薄板溶接時に発生する溶接変形の発生機構等に関する基本的な知識について概説するとともに、変形の把握・抑制・制御方法や、最近の数値シミュレーションの利用法・展望について紹介する。

⑤17:00~17:10 閉会の挨拶

■開催場所（東急車輛製造株式会社 横浜製作所）案内図



■申込書式

以下の空欄に記入の上、電子メール、または FAX、郵送で申し込み下さい。

申込先：東京大学大学院工学系研究科 環境海洋工学専攻 武市 祥司 宛

e-mail: takechi@naoe.t.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-3815-8360

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

第 33 回溶接学会東部支部実用溶接講座（見学会 & 講習会）申込書

(申込日： 月 日)

●受講者名（漢字&ふりがな）： \_\_\_\_\_

●会員資格（○をつけて下さい）： \_\_\_\_\_ ・正会員 ・賛助会員 ・学生会員 ・非会員

●昼食弁当申込（参加費の他に1,000円必要、○をつけて下さい）： \_\_\_\_\_ ・要 \_\_\_\_\_ ・不要 \_\_\_\_\_

付近の食堂などの利用は困難です。終日参加者は申込みをお勧めします。

●勤務先／会社名・所属部課名 または通学先／大学名・所属学部学科名

●勤務先／通学先の連絡先

・住所： \_\_\_\_\_

・E-mail： \_\_\_\_\_ 電話： \_\_\_\_\_ FAX： \_\_\_\_\_



## アドホック研究会「ファイバーレーザースマート加工研究会」発足のお知らせ

### 1. 目 的

本研究会では、ファイバーレーザーをスマート加工に導入することによるメリットについて多角的に検討することを目的とする。また、溶接・接合プロセスに関わる若手研究者・技術者の交流を通じて、新しい研究・開発シーズの発祥の場としての役割を果たしたい。

### 2. 研究期間

平成17年開始月より1年間

### 3. 主査及び委員構成

主査：塚本雅裕（大阪大学）

副査：中野人志（近畿大学）

幹事：本田博史（物質・材料研究機構）

委員：柴柳敏哉（大阪大学）、川人洋介（大阪大学）、津村卓也（大阪大学）、吉田 実（近畿大学）、松坂壮太（千葉大学）、村井健介（産業技術総合研究所）、部谷 学（光産業創成大学院大学）、川戸 栄（福井大学）、橋田昌樹（京都大学）、前田純也（浜松ホトニクス株式会社）

### 4. 問い合わせ先

大阪府茨木市美穂ヶ丘11-1

大阪大学接合科学研究所

塚本 雅裕

Phone: 06-6879-8675

Fax: 06-6879-8675

E-mail: tukamoto@jwri.osaka-u.ac.jp

## 東海支部 第57回溶接研究会開催案内

溶接学会・東海支部主催の第57回溶接研究会を下記要領により開催致します。

1. 研究会主題：「異材継手の溶接プロセスと解析」
2. 開催日時：平成17年10月18日（火）  
13時から16時45分
3. 開催場所：名古屋市工業研究所・管理棟・3F・第1会議室  
名古屋市熱田区六番 3-4  
（地下鉄「六番町」駅下車すぐ）
4. プログラム  
13:00-13:05 開会の挨拶 沓名宗春支部長  
13:05-14:00  
(1) CMT プロセス・新機軸の金属接合技術  
—鋼とアルミの接合  
愛知産業株式会社：古川一敏氏  
14:00-14:35  
(2) アルミニウム合金と鋼板とのアーク溶接継手の性質  
住友軽金属工業株式会社：前田興一氏

14:35-14:50 休憩

14:50-15:30

- (3) アルミニウムと異種金属薄板の電磁シーム溶接

東京都立工業高等専門学校：相沢友勝氏

15:30-16:20

- (4) 低炭素鋼，アルミ合金，チタン等の異種金属継手のレーザロール溶接

名古屋大学：沓名宗春氏

16:20-16:40

- (5) 総合討論

16:40-16:45 閉会の挨拶

土田豊副支部長

5. 定員：100名（先着順）

6. 申込み方法：

参加者氏名，連絡先（会社名，所属，住所，TEL，FAX，E-mail）を次の東海支部事務局までE-mailまたはFaxでご連絡下さい。

東海支部事務局

jws@met.mach.mie-u.ac.jp

Fax: 059-231-9474（三重大学 川上博士）

溶接学会若手会員の会主催勉強会

「数値計算法の新たな展開 –マルチフェーズ輸送現象の高精度予測手法–」

日時：2005年10月6日（木）13:00～17:20

会場：大阪大学 接合科学研究所 2F 会議室  
〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘11番1号

Tel: 06-6877-5111（代表）

Fax: 06-6879-8689

<http://www.jwri.osaka-u.ac.jp/>

講演題目：

『汎用多相計算法 CIP 法の新しい展開と応用』  
東京工業大学 矢部 孝氏

『粒子法による連続体の数値解析』

東京大学 越塚誠一氏

『重合メッシュ法を用いた構造解析手法』

東京大学 中住昭吾氏

『メッシュフリー法の基礎と応用および最近の動向について』

慶應義塾大学 野口裕久氏

※若手会員の会特集ページに詳しいプログラムを掲載しています。

## 大阪大学接合科学研究所教員募集について

### 【教授職】

公募人員：教授 1 名

所 属：大阪大学接合科学研究所  
複合化機構学分野

専門分野：先進材料の複合化，構造化の基礎学理を確立するとともに，革新的プロセスによる複合材料の創製技術開発並びに材料界面の信頼性等評価研究を積極的に推進できる方。

### 提出書類：

(1) 履歴書 (写真貼付)，(2) 研究業績目録 (審査付き原著論文，国際会議論文，著書，総説，特許，その他に分類下さい)，(3) 主要論文別刷り (5 編以内，コピー可)，(4) 研究業績の概要 (A4 用紙 1～2 枚程度)，(5) 着任後の研究教育活動の抱負 (A4 用紙 1～2 枚程度)，(6) 外部資金獲得の状況，(7) 照会可能な方 2 名の氏名と連絡先

任 期：7 年 (実績評価により再任可)

応募資格：年令 50 才程度まで，博士の学位を有する方。

### 【教授または助教授】

公募人員：1 名

所 属：大阪大学接合科学研究所

研究内容：接合科学に関する基礎学理を確立するとともに，革新的プロセスによる接合技術開発を積

極的に推進できる方。

### 提出書類：

(1) 履歴書 (写真貼付)，(2) 研究業績目録 (審査付き原著論文，国際会議論文，著書，総説，特許，その他に分類下さい)，(3) 主要論文別刷り (5 編以内，コピー可)，(4) 研究業績の概要 (A4 用紙 1～2 枚程度)，(5) 着任後の研究・教育活動の抱負 (A4 用紙 1～2 枚程度)，(6) 外部資金獲得の状況，(7) 照会可能な方 2 名の氏名と連絡先

任 期：7 年 (実績評価により再任可)

応募資格：教授の場合は年齢 50 歳程度まで，助教授の場合は年齢 45 歳程度まで，いずれも博士の学位を有する方。

応募締切日：平成 17 年 11 月末日 (上記 2 件共通)

着任時期：平成 18 年 3 月

### 書類提出・問合せ先：

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘 11-1

大阪大学 接合科学研究所

所長 野城 清

E-mail: nogi@jwri.osaka-u.ac.jp

封筒に，「教授応募書類」あるいは「助教授応募書類」と朱書し，簡易書留で郵送下さい。なお，応募書類は返却しません。

## 群馬県職員募集案内

### 【選考採用研究員】

#### 1 募集職種・人員

繊維応用技術研究員 1名

#### 2 業務内容

繊維工業試験場（桐生市）に勤務し、次の業務を行う。

繊維に関する基盤的技術及び化学や物質工学に関する知識を応用した開発研究，技術指導，技術相談，試験・評価等に関すること。

#### 3 応募資格

繊維及び繊維技術から派生する非衣料分野に関連した開発研究，技術指導，試験・評価等に情熱を持って取り組む意欲がある人材で，次の要件をすべて満たす人が応募できます。

(1) 年齢 平成18年4月1日現在，27歳以上の人

(2) その他

①学校教育法に基づく4年生の大学又は大学院を卒業した人，又は同程度の学力を有する人

②企業，大学院等において，繊維に関連した研究開発，製品開発，評価，技術指導，技術相談等

の分野又は繊維外の研究開発の分野で5年以上の実務経験を有する人

### 【任期付研究員】

#### 1 募集職種・人員

環境技術研究員 1名

バイオ技術研究員 1名

#### 2 業務内容

群馬産業技術センター（前橋市）または東毛産業技術センター（太田市）に勤務し，次の業務を行う。

環境技術研究員

地球環境浄化，廃棄物の削減，資源・エネルギーの有効活用を行うため，一般的な工学手法（触媒技術，ガス化技術，燃焼技術，科学技術，反応工学等）を用いて研究開発を行う。

バイオ技術研究員

生物工学技術を用いて，県産農産物の活用や廃棄物の削減など社会的に有効な技術の開発を行う。

#### 3 任期

平成18年4月1日～平成21年3月31日（3年間）

#### 4 応募資格

産業技術センターは、中小企業に役立つ実績をあげ、真に中小企業を支援していけるセンターとなることを目指しています。この趣旨を理解し、研究開発、技術指導、試験・評価等に情熱を持って取り組む意欲がある人材で、次の要件をすべて満たす人が応募できます。

- (1) 大学院修士課程を修了し、一定の経験をもとに独立して研究する能力を有する者
- (2) (1) と同等の能力を有すると認められる者  
※年齢、国籍は問いません。

#### 【任期付研究員】

##### 1 応募職種・人員

繊維応用技術任期付研究員 1名

##### 2 業務内容

繊維工業試験場（桐生市）に勤務し、次の業務を行う。  
繊維に関する基盤的技術及び化学や物質工学に関する

知識を応用した開発研究、技術指導、技術相談、試験・評価等に関すること。

##### 3 任期

平成18年4月1日から平成21年3月31日までの3年間（予定）

##### 4 応募資格

繊維及び繊維技術から派生する非衣料分野に関連した開発研究、技術指導、試験・評価等に情熱を持って取り組む意欲がある人材で、次の要件をすべて満たす人が応募できます。

- (1) 大学院修士課程を修了し、一定の経験をもとに独立して研究する遂行する能力を有する人
- (2) (1) と同等の能力を有すると認められる人  
※年齢、国籍は問いません。

※本件につきましては、群馬県ホームページをご参照ください。

群馬県ホームページアドレス <http://www.pref.gunma.jp>